

定額乗合交通 実験スタート

松山・久枝地区まちづくり協など

松山市の久枝地区まちづくり協議会などは13日、会費制で定額乗り



松山市久枝地区で実証実験が始まった乗合交通「チョイソコひさえだ」を利用する住民

13日午前 松山市安城寺町

乗降場所200ヵ所 住民主体 会費で運営へ

「チョイソコひさえだ」の実証実験を始めた。行政から補助金を受けず、会員登録した利用者と協力事業者の会費のみでの運営を目指しており、住民主体のモデル事業として注目されている。

住民の移動手段を確保するため協議会と東洋タクシー、ネットヨタ瀬戸内が実施。乗降場所200ヵ所を設け、平日に1台で地区を運行する。

現在の会員は約230人、協力事業者は40。会員は3月まで無料で利用でき、4月以降は月約3千円の会費を払う。地元協力事業者の月会費は1万円程度。実証実験は少なくとも来年3月末まで続ける。

13日に地元の久枝小学校で出発式があり、協議会の吉岡隆会長が「みんながより行動しやすくな

れば」とあいさつ。高齢者らの活動範囲が広がることで健康寿命の延伸も期待した。

買い物で利用した女性は「自宅近くから乗れる。高齢者だけでなく、赤ちゃんがいるお母さんらにも便利だと思つた」。協力事業者の建設業マルマストリクの河野行信専務は「税金を使わず、地域を自分たちで良くしていこうという取り組みは、まちの活気にもつながるのでは」と話した。

運行にはトヨタグループのアイシン精機(愛知県)のシステムを活用。同社の担当者は久枝の事例について「協議会の課題認識力と結束が強く、協力事業者も多い。サブスクリプション(定額制)で持続可能なモデルになるか注目していく」とした。

(丸岡裕美)

地域に見合った 公共交通考える

松山で自治体関係者ら

自治体関係者が地域に即した公共交通の在り方を考える意見交換会が19日、松山市であった。県や県内8市町の担当者らが、松山市久枝地区の住民らが利用者と協力事業者の会費だけでの運行を目指している予約型乗合交通「チョイソコひさだ」の取り組みからヒントを探った。

ネットトヨタ瀬戸内(松山市)が自治体の要望を受けて開き、住民や大学生らを含む約40人が参加。「チョイソコ」の実証実験をしている久枝地区まわづくり協議会とタクシー会社、ネット社の関係者が仕組みや課題などを紹介した。

利用者の少なさや安定運行のため協力事業者を増や



県内の自治体関係者らが公共交通の在り方を考えた意見交換会

19日午後、松山市

すことが必要と説明。現在は利用者の負担はないが今後は3千円の月会費を設定する予定で、協議会の担当者は「運営ではなく、地域の公共交通を育て継続するための出資金」との意識を住民に持ってもらえるよう説明したいと述べた。

八幡浜市政策推進課の石河陽介主任は「住民が地域に合ったやり方を考え、取り組んでいるのはすごい」と話した。

久枝地区の住民や事業者、大学生らを交えたワークショップもあり、若い人も巻き込む仕組みやホームページでの情報発信など課題解決に向けたアイデアが出された。(丸岡裕美)

予約型乗合交通 実証実験3ヵ月 松山・久枝地区

解く追う

松山市の久枝地区まちづくり協議会などが、会費制で定額乗車型予約型乗合交通「チョイソコひさだ」の実証実験を始めて約3ヵ月。行政の補助金を受けず、会員登録した住民と協力事業者による会費での運営を目指している。高齢化が進む中、「まちづくり」として住民主体で交通手段を確保する取り組みで、注目を集めている。

協議会などによると、久枝地区は人口約2万人、希望の時間や場所を予約したバスが南北を走るもの、自宅からバス停までが遠いといった理由で買い物が通院に困る高齢者が多くいるという。一般のタクシーは近距離移動には呼びづらいとの声もあった。

▼出かける契機
実証実験は住民よりまちづくりに向け、協議会と東洋タクシー、ネットタクシーが1月1日に開始。停留所を自宅前やスーパー、病院など15カ所(3月末時点)に設け、地区内で平日のみ運行する。

協議会などによると、久枝地区は人口約2万人、希望の時間や場所を予約したバスが南北を走るもの、自宅からバス停までが遠いといった理由で買い物が通院に困る高齢者が多くいるという。一般のタクシーは近距離移動には呼びづらいとの声もあった。

買い物・通院 利用者に好評

人の上乗だが、ネット社の大石一浩モビリティ事業部長は「広域の気持ちは会員になる住民も出てくる状態になれば」と願っている。

運営継続へ会員の確保鍵

と説明「地元の家計同一のつなかりをうけ、仲人も利用者が気持ちよく活動や利用ができる体制づくりの重要性を述べ、わがまちのため自分ができることを見つけ、協力を加えたい」として住民主体で取り組む事業。いかに役割を分担し、運営を維持していくか。地域を盛り上げる協力が求められる。

とあって「安心感がある。ありがたい。一から仕組みをつくって運営していくのがいかに大変か分かる。できることがあれば協力したい」。周知のために自宅の目立つ場所に停留所の看板を張り、知人に勧めたりしている。

▼住民に声掛け
協議会などは、7月からの有料化時点で安定的な運営のために会員150人が必要とみている。現在無料の会員の継続に加え、また「チョイソコ」を知らない人への周知も図る。組長や民生委員らが移動に困っている人たちに声を掛け続けている。1台での運行のため、実際に利用する会員数は150



松山市久枝地区で実証実験中の乗合交通「チョイソコひさだ」に乗車する女性＝5日午前、松山市東長戸4丁目

▼定例会開始

運営の負担が一部住民らに集中している現状を解消しようと、住民や協力事業者が声を掛け、協議会を組織化。情報共有のため、参加可能な人が集う毎週土曜日の定例会も始めた。中心に運営に携わる協議会の佐賀山崎事務局長(右)は「大勢で力を合わせ、まちづくりを推進したい」と語る。町内会や協議会の単発的な行事とは違い、年間を通じた対応が必要だけに「皆さんの力をいただけでいい」とい

(丸岡裕美)